

作文部門・中学生の部

最優秀賞

守り伝えてゆく

鹿沼市立北押原中学校三年

嶋田 萌しま だ もえ

私には好きな風景があります。それは自分の住む町にあるたくさんの自然です。特に小学校やその周りにある木々や田園風景が好きでした。

学校のシンボルであるウヤキの木は、夏には葉が青々と茂りそこから差す木漏れ日がとても美しかったです。正門には大きなしだれ桜が、別の場所には桜の木が何本もあり、それらが咲き誇る中で撮った入学式の写真は私の宝物です。また学校の向かいには田んぼがあり、風で稲がサフサフと揺れる光景は波を見ている様でした。黄金の稲穂は朝日と夕日に照らされ、眩しいほどに輝いていました。今でもその美しい光景と、そこから感じる不思議なパワーはしっかりと心に残っています。

ですが、悲しいことにその思い出の風景の中には無くなってしまったものもあります。入学式に見た桜は、しだれ桜だけを残し他は全て切られてしまいました。向かいの田んぼも全て住宅地となってしまいました。また、近所の田んぼも田植えを行わなくなり、季節ごとの美しい風景は見られなくなりました。仕方ないと分かっていますが、思い出が一つずつ消えてしまふよう寂しくなります。

なぜ、こんなにも自然は減ってしまうのでしょうか。私は自然減少の最大の原因は、少子高齢化だと思います。これが進むことで田園を管理する人が

どんどん高齢化し、作業が難しくなります。後継者も減少し、その結果管理が出来なくなり土地を手放すことになってしまふのでしょうか。私の母も庭の手入れを行ってくださっていますが、仕事もあるため思うように進まずとても大変だと話していました。庭の管理すら大変なのです。広い田園や森林を高齢者が管理するのは、あまりにも負担が大きすぎるでしょう。

また、私達の主食の変化も原因の一つだと思います。クラスで朝食はお米がパンかを聞かれた際、半分以上がパンと答え、とても驚きました。お米の消費量が減ると、生産を止めてしまふ農家も多く、最近は輸入米が増えています。

これらはどう解決すれば良いのでしょうか。自然は一年や二年では元通りになることは出来ません。森の木々も何十年何百年と長い年月をかけ成長していきます。田園も一度止めてしまふと、土が戻るまでに何年もかかってしまふそうです。だから継続して守り続ける必要があるのです。

そうは言っても、個人で動くのはなかなか難しいと思います。私自身、緑化や森林保護の力になりたいという想いはあっても、どう動いたら良いか分かりませんでした。ですが私の地域には道路沿いに花壇があり、私達中高生が季節ごとに花を植えるというボランティアが行われています。活動自体は大きなものではありませんが、緑を守る大切な活動だと思います。

私はこのようなボランティアをもっと増やすべきだと思います。例えば、年に数回地域の農家や森林保護活動などのお手伝いを行うのはどうでしょうか。一人では動けない人も学校全体の活動となれば動きやすくなり、地域の方との交流にもなり、必ず力になることが出来ると思います。そして、この活動を通して農業の道へと進み、新たな後継者となる人も出てくるのではないかと思います。

大切な自然を守るために私は、出来る活動には積極的に参加しようと思います。また、活動を運営する側となりさらにその力になれたらと思います。

幼い頃から見てきた、大好きな自然の風景とそのパワーを何十年も後の人々に感じてもらい、同じように伝えていきたいと思ってもらえるよう、守っていかれたら良いと思います。